

- 1 日時 平成27年7月23日(木)午後3時～5時
- 2 場所 つくば市役所5階庁議室
- 3 出席者 大村 謙二郎, 大島 慎子, 金子 弘, 光田 勇男, 秋葉 忠, 土田 禎太郎, 和田 哲郎, 岡崎 貴, 越後 賢治, 潮田 勝利, 木村 清隆, 浜中 勝美, 須藤 光明, 星野 弘, 長島 芳行
(敬称略)
(事務局) 企画部次長, 企画・国際課長, 企画・国際課長補佐, 企画担当
(傍聴者) 2名

4 内容

(1) 開会

(2) 会長及び副会長選出

上郷高校跡地利活用方策検討会設置要項第5条に基づき, 座長及び副座長を選出した。座長に大村謙二郎委員, 副会長に坂本義治委員が選出された。

(3) 委員自己紹介及び事務局職員紹介。全員自己紹介を行った。

ここからは, 上郷高校跡地利活用方策検討会第6条第2項の規定により, 大村座長が議長を務めた。

議事に入る前に, 事務局が配布資料の確認を行った。

「つくば市情報公開条例」及び「つくば市会議の公開に関する指針」に基づき, 本検討会の公開・非公開について諮った結果, 原則公開となった。傍聴者2名が入室した。

5 議事

(1) 上郷高校跡地及び学校施設の概要について

座長: 事務局から, 資料について説明願います。

事務局: 資料のとおり説明した。

座長: ここまでの説明についてご質問がある方はどうぞ。

運動場を少年野球の子供たちなどに貸し出しをされているが有料か? 無料か?

事務局: 無償です。

座長: 他団体が使用したいなど利用希望団体が多い場合は, 抽選などをして貸し出しをしているのですか?

事務局: 抽選はしておりません。

座長: 他にご質問がなければ, 説明を続けてください。

(2) 跡地利活用検討の経過について

事務局: 資料のとおり説明した。

座長: ここまでの説明についてご質問がある方はどうぞ。なければ, 説明を続

けてください。

(3) 今後の検討の方向性について

事務局:資料のとおり説明した。

(4) 意見交換等:

座長: 只今, 資料について説明がありました。皆さまからご質問やご意見をどうぞ。

地元の方は学校のこれまでの経緯について良くご存じだと思うが, 私のように地理的にもあまり承知していない委員もいらっしゃると思う。色々な疑問に対する質問や意見を出して下さい。

委員: 当時, 同窓会会長をしていた時に県への要望活動を行った経緯がある。市内の病院から看護学校がグラウンドを使用したいという話があったが, その後立ち切れになりました。また, 以前にも私立高校からグラウンドとして借りたいという話があったが, 既にスポーツ少年団などに貸出中のため貸せなかった。以上報告でした。

座長: 看護学校の話はタイミングの問題ですか?

委員: 東日本大震災の影響が大きかったようです。

委員: 地元民の一人として, 色々な懇談会に出席してきました。その中で, 資料の説明にもあったように文教施設誘致を望む声が多かった。しかし, 時節柄, 少子化で閉校が続いている中で文教施設はまず無理だろうという意見もあります。まずこの話は, アクセス道路が非常に貧弱だから, 現地を見た人は手を上げられないと思う。これは, 跡地を何とかするのが先か, 道路を先行して整備するののかの話だと思う。従って, 私としては, 道路を優先的に整備して欲しいと思う。高速道路のICからも近いし, 今後, この地区は相当魅力的な地域になると思う。是非, 行政に道路整備をお願いしたい。

委員: インフラも非常に重要だが, 一方で, 我々が跡地問題促進協議会を立ち上げ, 結論として文教施設を誘致して欲しいという内容にした。現在の状況は若干違うかもしれないが, マスコミ等によると各地で廃校後の学校誘致に成功している地域があるようだ。皆様にはアドバイスを頂きたいと思う。道路や上下水道などのインフラ整備には莫大な資金が必要になると思うが, 同時に進めて欲しい。

委員: 今までの利活用についての経緯や考え方について市から説明をいただいた。また, 地元の方々の貴重な土地についての想いや考えを伺いました。この後, 検討を進めるにあたり, 検討の前提として条件を整理すべきだと思う。さらにこの先を考えた時に, 何点か条件整理をして今後の検討の枠組みをもう少し大きく捉えて議論を積み重ねていくのが良いと思う。その際, 重

要なのは、この地域のニーズがどのへんにあるのか。この場所の立地条件や土地の規模、施設の条件をひと通り整理いただいたが、こういうまとまった規模でただ調整区域でもあるし、立地するインフラが弱い部分があるということで、西側には小貝川があり、インターチェンジも出来ると。橋をかけずとも今のインフラのままやっていくということになると、そこの関係性をどうするか。また、市中心部との関係性をどうするかなど、広域的に見据えて条件整理というものが必要になるのではないかと思う。

将来のどの時期をターゲットにした土地利用を考えるべきなのかということも考えておく必要があると思う。今までの経緯との関係でどういうニーズがあるのかということは、もちろん大事ではあるが、それに加え、この先10年、20年と、つくば市の色々な社会構造や人口の推移などを見据えて、市のあるべき貴重な財産が、10年、20年、30年と年を重ねていくときに、そのニーズが市全域でどうか?或いはこの地域でどうか?今、極端な例でいくと少子化、高齢化が進んでそういうニーズにどう答えていくかというのは、人口統計の面から言えば推計が出ると思う。行政経営サイドでもっていると思う。そういうものとの関係で、今も大事ですが将来の少し先の視点を見たときに何がこの地域に必要なのか、また地域の発展につながるのかという事を少し幅を広げて考えていただくのが良いと思う。

先ほどの説明の中に、利活用方策の候補が挙げられていた。これは直近のニーズでいえばありだと思う、介護専門学校施設などは、今まさにニーズとしてあったのだと思う。しかし、地震の関係で上手くまとまらなかったようだが、少し長期的な目を見たときに教育関係・福祉関係・医療関係はニーズが増大していくことが予想される。ここは注意深く探っていく必要があると思う。

委員：これから先の議論に対して簡単に整理して欲しい。それは、地元の希望は文教施設が良いと言っている。市の説明は何でも良いから提言して欲しいと言っている。つまり、これではこの先ずいぶん話が変わってくると思う。今の委員のように、これからのニーズを踏まえて議論してしまっても良いのか?それから最初の説明で、ハブ空港のように開発したいとあったが、どこがハブで何がスポークなのか分からない。私は航空会社の出身です。ハブ&スポークというのは相当求心力のあるハブが無いとスポークも存在しないので、その辺の説明を聞かせて欲しい。市は何を中心に、どういうふうに進展させたいのか?具体的な説明があると色々な意見が出しやすいと思う。

座長：他にご意見をどうぞ。金融や民間のマーケット感覚から見て如何でしょう?市の西部地区でまとまった土地があるが、中々ニーズが難しいという中でどのような利用の仕方やヒントがあればお聞かせ願いたい。

委員：私は委員のお話を頂いた後、直ぐに現地を見に行った。何か人が集まるためにはインフラやアクセスという要素は非常に大事だと思う。平成23年から検討していて中々上手くいっていないという根本の部分を掘り下げたほうが良いのではないかと思う。せっかく良い土地があるのに何故生かしきれなかったのか?というところから入って行きながらやっていかれたら良いのではないか。もう一つは、地元は文教施設を望んでいるので、そこに絞っていくのか、それとも、市から説明のように何でもありで検討していくのかを明確にしていってほしいと思う。

委員：これまでの経過説明があった。その中で教育機関や専門学校にヒアリングをされたが、この話は建物を再利用することが条件の話ですか?

それから、この検討会は様々な角度から広く検討を重ね、建築物を再利用するのか、場合によっては取り壊しをして更地にして別のものにするのか?この辺が幅広くなっている。今までは建物を再利用することが頭にあって、看護専門学校や大学というのがあったと思うが、今回はそれは全くなしでもどちらでも良いという考えなのか?更地化を念頭においてもよし、現在の建物を再利用してもよしということで考えて良いのかを確認したい。

座長：事務局からどうぞ。

事務局：今のご質問ですが、これまで地元から文教施設の誘致要望が強かったことから、市はその方向で情報収集や誘致活動を行ってきた経緯があります。そして、建物については既存施設の利用を前提にした話だと思います。文教系一本に絞って取り組んできた結果、インフラ整備についての考え方がしっかりしていないのは確かです。その中で、文教施設を捨てたわけではありませんが、今回は幅広くご意見を頂きたいと思っています。資料で考え方を分野分けしたように、この利用策なら建物は必要だ。或いは必要ないなども含め、欲張った考え方でございます。従って、建物を活用することを前提としての考えではありません。

座長：中々難しいですね。私の感想としては、産業の分野の物流というのは、なじみがないと思う。何でも良いと言われても周辺なじみのある土地利用は何かというものを前提に置いておかないと良くないのではないかと思う。先程、委員から発言があったように、社会的構造が変わってきた。それは人口減少で上郷高校が廃校に至る大きな要素になったのだと思う。

この地域、豊里地区か西部地域かの将来の人口構造をどう見るか?

また、この場所をハブ&スポークと言ってもどこがハブで、どこがスポークなのか分からないという意見。上河原崎中西地区や葛城地区などがハブになるのかもしれない。或いは地域拠点という観点からどうなのか?

そういう意味では地域のポテンシャルなどを少し掘り下げてやっていくとい

うこと。

最近、もっと地理的に不利な中山間地域でも実は既存の施設を上手く活用している地域もある。小中学校を上手く転用して活用しているところもあると思う。事務局には、地域おこし型の学校跡地利活用などでヒントになるようなものを調べてほしい。それと、もともと農業校の歴史があり、後に一般校になったというように時代のニーズが変化してきた。そこで、地域の食材づくりなどもあると思う。三重県の事例で自分たちが農作物を作る喜びを作り出しているところがあったと思う。体験型農業などの事例を事務局で調べておいてください。ビジネス的な観点でどなたかお願いします。

委員：ビジネス的（商売）な観点でいけば、まず立ち位置が良く理解出来ない部分があるが、予算付けしてここを攻めて検討していくのか、事業主体を民間なり、現場に地域創生のために運営を任せてやっていくのか、市としてのスタンスが無いと議論が進まないのではないかという印象です。予算付けしながら地域の活性化とかを考えるとときに文教なのか商売なのかでは、全くスタートラインが違う。ここを決めないとどっちに舵を切っていくのか分からないので、決めると具体的な議論が出来るのではないかと思う。

委員：範囲が広すぎて分かりにくい。

座長：悩ましいのは、面積が広すぎて7haを一気にどうするという話も難しいと思う。また、一気に恒久的な土地利用をするという考え方もまた難しいと思う。であれば、暫定的な利用を始めて、徐々に地域としての利活用を考えていくのも方策の一つではないかと思う。看護学校も敷地全部では難しかったのかもしれない。

委員：これまでも議会の中で質問をしているが、地元民として何が良いかと聞かれたら、元々学校だったから教育関係が良いよねというのが多くの方々の考えだと思う。ただ、地域に波及効果があれば、学校施設にこだわらず他の施設でも良いのではないかという意見もあります。私自身もそのように考えています。その中で、学校関係だと全国的な様々な事例の中で先日視察してきた北海道三笠市。かつては炭鉱の街で人口7から8万人の街が、今や1万人を切っている。そこで、北海道立の学校が閉校になった。1万人を切った時点で閉校になった学校を払い下げて市立の学校を作り上げた。わずか8千人の人口しかいなくなってしまった街が何とかしなくてはという市民の協力で競争率も高い寄宿舎も用意した中で、北海道全道から生徒を集め特殊な科目を作ってやっているところもある。そのようなことから、上郷高校も広い土地もあるので工夫次第では魅力的な場所だと思う。出来れば、つくば市立の学校を作って欲しいと考えている。各研究所から研究者の方や退官された先生方、行政も含めて多くの人材がいるわけだから、その方々の知的財産

はまさに国民みんなの財産だと思う。従って、わずかな時間でも結構なので教壇に立っていただきたいと考えている。世界のつくば市立の最優秀で最先端の先生方が教壇に立っていただくというのは本当に素晴らしいことだと考えている。生徒も国内にとどまらず、海外からも生徒が呼べるのではないかと考えている。座長からも話があったように7haという広大な土地ですので、部分的に使っていただけるように、或いは隣の小学校は4haあります。少し大がかりになるが、10haを使うような形で小学校、幼稚園、保育園、児童館を使うような形での総合的な文教的な見直しをして将来を見越すのも考えられるのではないかと思う。部分的に小さくして使う、或いは大きくして使うという両方からの活用ができれば良いと思う。また、運動場はサッカー、野球と土日は賑やかに子供たちや社会人が使っている。その方々がグラウンド整備やトイレ清掃をしていただいております。使っている方々は使えなくなるのではと心配しているので、跡地利用については、建物の利活用とは別にグラウンドは考えて欲しい。

委員：以前、上郷地区の区長による懇談会があった。その際、少年サッカーや少年野球の関係者からはグラウンドは引き続き使いたいので、建物とは別に考えて欲しいという意見が出た。このへんを考慮して進めて欲しい。

委員：参考になるか分からないが、上郷地区は農村地域です。この上郷高校を拠点にしようというのだから、半分使ったら良いとかという考えは疑問です。というのは、ひとくくりに整備して拠点にし、周辺も併せて整備するなら分かる。そして、場合によっては建物を撤去して更地にすることも考えたほうが良いと思う。そうすることによって魅力的な土地になると思う。市の中心部からは末端で格差を感じている。従って、あの周辺を場合によっては50から100haぐらいくくって市の計画に載せていただき、そして、長い時間をかけて整備してもらいたい。先日7/1の茨城新聞に常総IC周辺開発で「食農団地」の整備事業の記事が掲載された。62haを整備し半分は農用地、もう半分を住宅地にして定住を図ろうという大きなもの。詳細は分からないが、そこから直線距離でわずか3km。こちらも大きくくくって整備したらいいと思う。

座長：たまたま時間があつたので土田委員の記事を読ませていただいた。その中で全村民が勤労奉仕で草取りにあつたという記事を読んだ時に、地元としては相当思い入れがあつたんだと思う。米国ではコミュニティ活動が盛んで、学校や公共施設というのは地元がやるというのが一般的で大事なことです。残念ながら、日本は高度成長でなくなってしまった。だから、もう一度地方創生で地元力というか地元が整備するという考え方をしたほうが良いと思う。もちろん、金銭的な負担がありますから、色々な形があると思うが、

地元が愛着を持てるように地元が頑張らないといけない。どこからか何かがちよっと来て活動が行われるようでは愛着が持てないと思うので、是非、そのへんは地域の方々が愛着を持って整備に関わってきたという歴史は大事にしないといけないと思う。そういう意味で、何か聞かれたら学校という話なのかと思う。ただ、時代とともに学校も変化しているので若い人だけの教育だけでなく大人の再学習も出てくるかもしれない。そういう意味では広い意味での文化教育かもしれない。大体時間となりましたが、他にご意見ございますか？

委員：委員の皆様には、是非、現地を見て欲しい。次回は、現地視察を兼ねて隣の小学校や児童館を借りて会議の開催を検討して欲しい。

座長：時間のある方は前倒しで集まっていたいただいて現地を視察するか、事務局と相談したいと思う。

委員：私は、つくば市の産業戦略会議に関わっている。以前、この会議の中で、つくば市は荒川区と大田区と協定を結んでいる。大田区はモノづくりで活気になっている。そこで拡張したいと考えている事業者がいるが、都内は土地が無い。つくば市としてはミニ工業団地のようなものを作って誘致ができないかと考えている。それは、人が働ける場所を考えていくことも大事ではないかという考え。その時に、当然インフラが必要なので、市がインフラ整備を合わせて行ってもらうようにしたいと思う。

座長：本日は最初の会議でしたのでフリートークとなり事務局への宿題も出ました。次回は、本日の意見を整理して深堀をしていきたいと思います。最終的には、何らかの報告や提言までこぎつけたいと思います。

(5) その他

座長：最後に事務局から、次回の会議日程などについて説明願います。

事務局：9月定例議会が終了した10月9日(金)午後3時から開催したいと考えています。なお、現地を視察する件については、バスを確保するなど調整し、座長と相談した上で、会議開催と併せて委員の皆様にはご案内させていただきます。

(6) 閉会

座長：それでは以上で、本日の会議を終了したいと思います。皆様ご苦勞様でした。